

報知新聞社杯争奪戦 FI



8 / 28 (木) 29 (金) 30 (土) 開催 デイ **川崎スポーツ**

レース展望

8月28日から報知新聞社杯争奪戦として行われるFIS級シリーズは久々の川崎昼間開催。S級・A級ともに全国8地区から好選手が集まり、連日の熱戦が予想される。

今開催のシリーズリーダーになるのはもちろん地元松井宏佑(113期)。今年はグレード戦線での戦いが多いが、2月奈良記念Vや5月名古屋ダービーで決勝進出を果たすなど、上位陣との戦いでも大きな活躍を見せており、結果もしっかり残っていて、狙うはVのみになるだろう。ホームバンク福田知也(88期)は勝ち上がって行けば松井の番手を回るチャンスが十分なだけに、気迫で直線追い込む場面があるはず。北日本の中心は

当地FIではコンスタントに出走を見せる守澤太志(秋田96期)。6月別府記念では新山響平を差し切って久々のGIⅢVを達成しており、まだまだそのキメ脚は健在だ。機動力衰えない渡邊一成(福島88期)や自在脚冨える佐藤一伸(福島94期)との好連係に期待する。関東はこの一年で競走得点を110点台まで一気に上げた鈴木玄人(東京117期)がタテヨコ何でもこなすオールラウンダーの戦いで上位喰い込みを目指す。自在脚ある山岸佳太(茨城107期)と同乗すればその前後はどうなるか。中近勢からは近況は追込型に戦法を変えつつあるが、自在脚を持つ山田久徳(京都93期)がしっかり好位をキープからバック捲りを狙

い、そこに大ベテランの600勝選手である志智俊夫(岐阜70期)が続いていく形になりそう。24年の川崎桜花賞GIⅢを制した嘉永泰斗(熊本113期)がそれ以来の当地出走となり、今回も抜群のスピードを発揮するだろう。西日本連係となりそうな阿竹智史(徳島90期)もタテ脚は十分でゴール前は好勝負に持ち込むか。

A級では昨年12月に2班に昇班してから8Vを決めている谷内健太(京都125期)の機動パワーが一歩リードで、前期S級の古賀勝大(和歌山115期)や酒井拳蔵(大阪109期)と上位独占を目指す。関根健太郎(100期)が地元の気合で一角崩しを狙っていくだろう。

地元松井宏佑主力も別線勢好勝負

S級
主力選手



松井宏佑 神奈川 113期

強力なメンバーが揃う今開催で、地元の牙城を護るのは松井宏佑。いま神奈川で初タイトルに最も近い選手だ。賞金ランキングでも上位につけており、ホームバンクで開催される年末のグランプリも圏内で一戦一戦が大事になってくる。ここを勝ち終盤戦に弾みをつける。

S級
主力選手



嘉永泰斗 熊本 113期

九州地区の若手の中心的存在。GIⅡ決勝は2度経験しており、タイトルも狙えそう。今年は特筆するような結果は出せていないが、グレードレースでの好走は多い。捲り主体の決まり手だが、しっかりラインを連れ込む早めの仕掛けも十分で、同期松井とV争い注目。

S級
主力選手



鈴木玄人 東京 117期

初のGI参戦となった函館オールスターでは5走中4回確定板に乗り、猛アピールに成功。惜しくも準決勝で敗れたが、GIの舞台で初勝利も挙げ、今後につながる走り。持ち味は強気なレーススタイル。さばきもこなす自力自在の走りはファンの車券を裏切らない。

A級
注目選手

谷内健太
京都 125期



先行主体のスケール大きいレースで着実に力を付けている。学生時代にロードレース鍛えた強靱な地脚が魅力で、8連勝で迎えた6月岐阜決勝ではS級特進に失敗しているが、今シリーズも2連続完全Vで乗り込んで来た。ここでS級特進を決めたいところだろう。

A級
注目選手

関根健太郎
神奈川 100期



もうひとつ波に乗り切れない近況が続いているが、積極的なレースが増えてバック本数は急増中。自在型な戦いが板に付いてはいるが、明らかに心境の変化が見られるだろう。しかし今回は地元戦で結果も求められ、南関勢の戦力が薄い中、どのように戦っていくか。

川崎競輪場バンクガイド (2024年1月~12月データ)

昨年1年間28開催・936レース(ガールズケイリンを含む)の川崎バンクの決まり手は右表の通り。昨年までのデータと逃げ・捲り・追込・マークのパーセンテージには大して変わりはないが、1着に限って言えば逃げ・捲りの決まり手は変わらず50%を超えているので、自力型のアタマから組み立てていく車券戦略が可能だろう。川崎名物イエローライン付近のゴール前強襲は、選手たちも新バンクに慣れて徐々に出現率が高くなってきている感じであり、力のある追込型はたとえ後方に置かれたとしても、最終4コーナーから一気に巻き返す可能性もあり軽視出来ない印象だ。

